

2024/11/9 (土)

0900	開会挨拶 (176教室)				0900
0905					0905
	279教室 (2階)	280教室 (2階)	281教室 (2階)	282教室 (2階)	
	研究発表A 司会 小石かつら	研究発表B 司会 武石みどり	研究発表C 司会 森田都紀	研究発表D 司会 藤田茂	
0915	A-1 岡田安樹浩 ワーグナー《神々の黄昏》のアシスタント作成 とされていた筆写総譜	B-1 キャンセル 田中伸明 Johann Wilhelm Hertel's <i>Abhandlung von der Musick</i> (1751)	C-1 神保夏子 日本音楽コンクールにおける海外派遣制度の成 立 (1956) とその背景	D-1 佐野直子 ジョセフ・カントループ《オーヴェルニュの 歌》のオック語表記の選択	0915
0955					0955
1000	A-2 長屋晃一 フィナーレの「演出」	B-2 ITOH, Tatsuhiko (伊東辰彦) The Complex Nexus of Quotations in Haydn's Symphony No. 98	C-2 田口裕介 戦前期日本における女性オーケストラ活動	D-2 川上啓太郎 ケクランの《20のアルターニュ民謡》作品115の 特異性	1000
1040					1040
1045	A-3 丸山瑠子 ミュージカル《レ・ミゼラブル》におけるリブ ライズの象徴機能	B-3 馬場有里子 J. ハイドンの《世俗カノン集》と啓蒙主義	C-3 今野哲也 最初期における島岡譲の音楽観と教育理念	D-3 陣内みゆき オリヴィエ・メシアン《アッシジの聖フラン チェスコ》創作過程	1045
1125					1125
1130	A-4 小野寺彩音 ツェムリンスキーのオペラ《こびと》における 「醜い男」の表出	B-4 栗田桃子 ルイーゼ・ライヒャルトの歌曲創作にみるロマ ン主義詩人達との関わり	C-4 三島わかな 彼の芸能からわが芸能へ	D-4 船木理悠 記憶の時間から忘却の時間へ	1130
1210					1210
昼食休憩					
	研究発表E 司会 森本頼子	研究発表F 司会 黒田清子	研究発表G 司会 長木誠司	—	
1310	E-1 藤東君 清国留日学生の唱歌集と身体教育	F-1 加畑奈美 ベートーヴェン作品におけるペーピング奏法に 関する考察	G-1 ボッホマン未奈理 《イントレランツァ1960》に見るシェーンベル クの投影	パネル企画1 山葉寅楠研究の現在	1310
1350				奥中康人 武石みどり 井上さつき	1350
1355	E-2 山本明尚 大衆が音楽を理解するために	F-2 鈴木麻菜美 「神秘の楽器」ネイの現代的変遷	G-2 山口真季子 1968年ダルムシュタットとシューベルトのアクチュア リティ		1355
1435					1435
1440	E-3 山田真理子 英国における近代的な音楽教育機関の成立	F-3 貝田かなえ 明治期におけるマンドリンの優位性	G-3 藤村晶子 ドイツ占領期 (1945-49年) におけるヒンデミッ ト受容の考察	パネル企画2 ゲストスピーカー付きの事例発表 音楽における差別 ——研究および教育の自由のための事例——	1440
1520					1520
1525	E-4 松田健 日本のチェロ教育におけるウェルナー教本の定 番化について	F-4 倉地真梨 大橋幡岩と大橋ピアノ研究所	G-4 釘宮貴子 歌舞伎「寺子屋」に基づく2つのオペラ	上尾信也 佐々木弾	1525
1605					1605
午後休憩					
1630	総会 (176教室)				1630

2024/11/10 (日)

	279教室 (2階)	280教室 (2階)	281教室 (2階)	282教室 (2階)	
	研究発表H 司会 野本由紀夫	研究発表I 司会 安田和信	研究発表J 司会 酒井健太郎	—	
0900 0940	H-1 松本華子 A. ドヴォルジャーク《弦楽四重奏曲第4番》の様式的転換	I-1 木村遥 コンセール・スピリチュエルにおける音楽監督と使用楽器の関連	J-1 李恵平 戦後日本の音楽出版における「越境」	—	0900 0940
0945 1025	H-2 岡本雄大 アントン・ブルックナーの交響曲における宗教的表現の含意	I-2 佐竹那月 18世紀後半における「自由ファンタジー」と修辭学	J-2 西澤志志 日本の「主観」に基づく「音楽批評」と文学界との関係について	パネル企画3 L. v. ベートーヴェンの作曲における楽器法の重要性 沼口隆 丸山瑠子 岡田安樹浩 菅原修一	0945 1025
1030 1110	H-3 高徳眞理 クロード・ドビュッシーの歌曲集《叙情的散文》(1893)	I-3 山本宏子 ヨーロッパにおけるオスマンの軍楽隊メフテルから影響再考	J-3 津上智実 社会貢献としての《メサイア》演奏		1030 1110
1115 1155	H-4 大迫知佳子 J. ブロックス《はたご屋の姫君》のフランデレン性とベルギー性	I-4 初山陽子 ヘンデル《アレクサンドロスの饗宴》における英詩の扱い	J-4 七條めぐみ ドイツ軍俘虜の音楽活動に対する国内外のまなざし		1115 1155
昼食休憩					
	研究発表K 司会 西田紘子	研究発表L 司会 米田かおり	研究発表M 司会 上尾信也	—	
1255 1335	K-1 大愛崇晴 協和音を規定する数は6を超えるか	L-1 山田高誌 ナポリ版《フィガロ》としてのピッチニ《栄えある女中》(1792)再考	M-1 井上果歩 後フランコ式理論の基礎的研究	パネル企画4 音楽学と音楽批評 —日本・フランス・ドイツの事例を中心に— 沼野雄司 白石美雪 安川智子 小島広之	1255 1335
1340 1420	K-2 三島郁 ライプツィヒ音楽院における「ゲネラルバス」	L-2 落合美聡 ビゼーの《ジャミレ》(1872)と《カルメン》(1875)	M-2 宮崎晴代 12~16世紀の写本に見るソルミゼーション・シラブルの用法と意図		1340 1420
1425 1505	K-3 佐藤太遥 中心軸システムによるショパンの和声語法の研究	L-3 向井大策 コミュニティ・オペラにおける参加と文化的邂逅	M-3 落合理恵子 16世紀イタリア音楽におけるサンナザーロの受容		1425 1505
午後休憩					
	研究発表N 司会 沼野雄司	研究発表O 司会 山本明尚	研究発表P 司会 川本聡胤	—	
1530 1610	N-1 仲辻真帆 近代日本における西洋音楽理論受容の一側面	O-1 野原泰子 山田耕筰のソヴィエト連邦での音楽活動	P-1 山上揚平 ゲームオーディオ研究の動向分析の試み	パネル企画5 日本洋楽史における帝国劇場 —初代支配人・山本久三郎(1874-1960) 旧蔵資料をもとに— 森本頼子 大西由紀 越懸澤麻衣 井口淳子 永井聡子	1530 1610
1615 1655	N-2 中原朋哉 エドガー・ヴァレーズにみる打楽器の表記と実演例	O-2 一柳富美子 プロコーフィエフ声楽作品の特徴と様式の変遷	P-2 加藤勲 ブラジルのエスコラ・ジ・サンバにおける音楽のリズム構造		1615 1655
1700 1740	N-3 宮川渉 細川俊夫作品における中心音の使用	O-3 中原豪志 ラフマーニノフのアメリカ時代の変奏曲と周辺音楽家との繋がり	P-3 大田星・松浦健太・澤井賢一・西田紘子 日本のポピュラー音楽における複雑なコードとその使用法		1700 1740
1750 1800	閉会挨拶 (176教室)				1750 1800